

行政事業レビューシート (文部科学省)

予算事業名	ナショナルバイオリソースプロジェクト		事業開始年度	平成14年度		作成責任者
担当部局庁	研究振興局		担当課室	ライフサイエンス課		ライフサイエンス課長 石井康彦
会計区分	一般会計		上位政策	科学技術振興のための基盤の強化		
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	知的基盤整備計画について(平成19年9月科学技術・学術審議会技術・研究基盤部会)、新たなライフサイエンス研究の構築と展開(平成21年12月ライフサイエンス委員会)、第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	作製された実験用動植物等を中核機関に収集するとともに、厳格な管理体制の下で効率的な保存を行い、実験の再現性を担保するような遺伝的に安定した質の高い実験用動植物等を研究機関に提供することにより、ライフサイエンス研究の基盤を整備する。また、収集・保存・提供等に係る技術開発や、系統・特性情報、ゲノム配列等の遺伝子情報を付加し、実験用動植物等の独自性・先導性を高める。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	実験用動植物等の収集・保存・提供体制を行う拠点の整備やバイオリソースの系統・特性情報、ゲノム配列等の整備、保存や品質管理の技術開発、バイオリソースの所在情報や遺伝情報のデータベースの構築を実施。					
実施状況	事業開始前に公募を行い、課題選考委員会において採択機関を決定。平成21年度は全33機関において、バイオリソースの収集・保存・提供を推進。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	1,776	1,400	1,368	1,338	1,325
	執行額	1,746	1,400	1,368		
	執行率	98.3%	100.0%	100.0%		
	総事業費(執行ベース)	1,744	1,398	1,368		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	○全ての採択機関について、支出先・用途を把握し、備品が適切に購入されたか等について、現地での確認も含む額の確定調査を実施している。 ○成果報告書の提出、研究機関へのサイトビジット等により、事業開始時の当初計画と比べた進捗状況や今後の展望について毎年度確認している。				
	見直しの余地	○バイオリソースの供給において国が果たすべき役割を明確にした上で、事業仕分けの評価を踏まえ、適切な受益者負担の仕組みを構築すべき。また、バイオリソースの整備について、適切な目標と評価指標を設定し、効率的・効果的な事業の実施に努めるべき。 ○他の研究開発プロジェクトにおいて作成されたバイオリソースのうち、有用性が高いものについては、効率的に本プロジェクトにおいて収集される仕組みを構築し、研究成果の効果的活用を図るべき。				
予算監視・効率化 チームの所見	1. 事業評価の観点:この事業は、ライフサイエンス研究の基盤として、遺伝的に安定した質の高い実験用動植物の提供等を行う研究開発に関連した公募型事業であり、長期継続事業にあたる。 2. 所見:他の事業に対する公開プロセスでの指摘等を踏まえ、競争参加条件等のより一層の見直しを図るなど、競争性、公平性、透明性を確保するとともに、昨年11月の事業仕分けで理化学研究所のバイオリソース事業に対し、リソースを安く提供する必要性について疑問を呈する指摘があったこと等を踏まえ、適切な対価を求めるなど、予算を縮減すべきである。また、平成21年度に補助金化しており、単純な長期継続事業にはあたらないものの、国が重点的に支援を行うべき実験用動植物等の提供に向けた体制整備の段階は終了し、今後はこれまでに整備した動植物等のリソースの効果的活用が求められていることから、研究機関のニーズに応じてより適切かつ効率的にリソースを提供できる仕組みとなるよう、見直しを行うべきである。					
補記						

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
行っているかについて補  
足する)  
(単位:百万円)

文部科学省  
1,368百万円

諸謝金 0.5百万円  
職員旅費 0.3百万円  
委員等旅費 0.9百万円  
庁費 0.5百万円

を含む

作製された実験用動植物等を中核機関に収集し、また厳格な管理体制の下で効率的な保存を行い、実験の再現性を担保するような遺伝的に安定した質の高い実験用動植物等を研究機関に提供することにより、ライフサイエンス研究の基盤を整備する。  
また、収集・保存・提供等に係る技術開発や、系統・特性情報、ゲノム配列等の遺伝子情報を付加し、実験用動植物等の独自性・先導性を高める。



[ 公募等・交付 ]

A. ナショナルバイオリソースプロジェクト  
:1,366百万円  
大学・大学共同利用機関・独立行政法人等  
(全33機関)

実験用動植物等の収集・保存・提供体制を行う拠点の整備やバイオリソースの系統・特性情報、ゲノム配列等の整備、保存や品質管理の技術開発、バイオリソースの所在情報や遺伝情報のデータベースの構築を実施。

A. 情報・システム研究機構					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	特任研究員、特任技術専門員、事業担当職員、技術補佐員及び補助者	73			
物品購入費	電磁誘導加熱式卓上攪拌機、フリーズ超低温槽、SEPHADEX G-50 SUPER FINE(5Kg)Big、Dye Terminator Cycle Sequencing ReadyReactionkit等	59			
電子計算機諸費	生物遺伝資源データベースの管理・運用業務・機能拡張、リソース総合データベースShunsakuDBMS導入作業等	55			
諸謝金	委員会出席謝金、業務実施補助謝金等	26			
雑役務費	野生イネゲノム解読に関わる調査研究業務、学会参加費等	17			
旅費	外国旅費、国内旅費等	10			
その他	借損料、印刷製本費等	25			
計		265	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

## 「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

A: ナショナルバイオリソースプロジェクト事業

	支出先	支出額(百万円)
1	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構	265
2	大学共同利用機関法人自然科学研究機構	243
3	国立大学法人京都大学	213
4	東京女子医科大学	90
5	国立大学法人京都工芸繊維大学	84
6	独立行政法人理化学研究所	77
7	国立大学法人筑波大学	67
8	国立大学法人九州大学	63
9	国立大学法人東京大学	41
10	国立大学法人宮崎大学	27
⋮	その他	196
合計		1,366